

## I 学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	宇佐市立豊川小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	11
児童数	27	24	19	28	29	23	0	150	

## II 研究の概要

## 1. 研究主題

よるこびを感じ、生き生きと学び合う子ども」を育てるには  
～確かな学力の向上を図る指導法の工夫・改善～

## 2. 研究内容と方法

## (1)実施学年・教科

## 1年生・国語科，算数科

- ・ 子どもが生き生きと学び合うスタートの学年であるため。
- ・ 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。(算数科)
- ・ 伝え合う力を培うスタートの学年であるため。(国語科)

## 2年生・国語科，算数科

- ・ 児童の理解の状況に差が見えやすくなる学年であるため(算数科)
- ・ 伝え合う力を発展させる学年であるため。

## 3年生・国語科，算数科，総合的な学習

- ・ 国語科，算数科で得た学力を検証・回復する場を，総合的な学習で設定するため。

## 4年生・国語科，算数科，総合的な学習

- ・ 国語科，算数科で得た学力を検証・回復する場を，総合的な学習で設定するため。
- ・ 学校として，当該教科に関する研究実績があるため。

## 5年生・国語科，算数科，総合的な学習

- ・ 学校として，当該教科に関する研究実績があるため。

## 6年生・国語科，算数科，総合的な学習

- ・ 6年間の締めくくりの学年として学力を徹底して検証し，回復させるため。

(2)年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>○ テーマ 「よろこびを感じ、生き生きと学び合う子ども」を育てるには ～確かな学力の向上を図る指導法の工夫・改善～</p> <p>○ 仮説 子どもが学びたくなるような題材を用いて活動を組み、その中で「こまり」や「よさ」を共に出し合い、そこから『ひみつ』や『きめて』となる数理を自ら発見していくなれば、意欲的・自主的に学ぶ子どもに育っていくであろう。 また、チャレンジ学習や複数担任制で学ぶ場を拡充すれば、さらに子どもたち一人ひとりの確かな学力の向上が図られるであろう。</p> <p>○ 研究方法・内容 (内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 生活時程, 時間割, 指導組織の編成</li><li>・ 学習の定着, つまづきの実態把握</li><li>・ 教育環境の創造</li><li>・ 算数科を中心とした指導法の工夫・改善</li><li>・ 授業観の転換</li><li>・ 駅川ブロック学校間連携学習会</li></ul> <p>(方法)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 時間割の工夫, 授業時数の確保, 指導組織の確立, 年間指導計画の重視</li><li>・ 全学年が国語と算数の学習到達度診断テストを行い, 個人カルテを作成</li><li>・ 教室, 図書室, チャレンジルーム, 掲示板など施設・設備の有効利用</li><li>・ 複数指導体制の確立, 題材構成や授業構成の工夫, 個人カルテと座席表</li><li>・ 先進校視察や資料集収集により, 他校の研究・実践に学ぶ</li><li>・ 子どもの生活に密着した題材構成の工夫と体験活動の設定</li><li>・ 「と・よ・か・わの学び」と複数担任制で授業構成を工夫</li><li>・ 個人カルテと座席表指導案で, より個に応じた, 指導と評価の一体化</li><li>・ チャレンジ学習(朝読書と午後の計算を全校が帯の時間帯で実施)</li></ul>
--------------------	---

平成  
15  
年度

○ テーマ

「よろこびを感じ、生き生きと学び合う子ども」を育てるには  
～確かな学力の向上を図る指導法の工夫・改善～

○ 仮説

子どもたちに必要や関心を喚起させる素材をもとに授業を組み立て、算数的活動(①作業的・②体験的・③具体的・④探求的・⑤発展的・⑥応用的・⑦総合的)や国語的活動(①伝え合う活動【話す・聞く・書く・読む】・②言語事項に関わる活動)を仕組み、かつ、子どもたち一人ひとりの学力の実態を的確に把握し、複数の指導者できめ細やかな指導や支援をおこなえば、基礎・基本の学力が定着すると共に、その学力は「生きて働く力」へと高まっていくであろう。

○ 研究内容・方法

(内容)

- ・ 時間割, 指導組織の再編成
  - ・ 学習の定着, つまずきの実態把握
  - ・ 教育環境の創造
  - ・ 国語科・算数科と総合的な学習の時間を中心とした指導法の工夫・改善
  - ・ 小・中学校間連携の研究実践
- に加えて,
- ・ 基礎学力の共通認識
  - ・ 評価規準・評価基準の見直し
  - ・ 学習過程(「と・よ・か・わの学び」)
  - ・ 学習形態(一斉・課題別・習熟度別・グループ別・TT など)
  - ・ 座席表指導案の活用によるきめ細か指導
  - ・ 学ぶ意欲を高め学力を検証・回復する, 「総合的な学習の時間」と生活科
  - ・ 学力の基盤をつくる「心の教育」指導と道徳教育の充実
  - ・ CRT・形成テストの実施による学力分析
  - ・ チャレンジ学習
  - ・ 教材教具の開発

(方法)

- ・ 授業時数の確保, 指導組織の確立, 年間指導計画の重視
- ・ 全学年が国語と算数のCRTテストを実施し, 学力分析を行う
- ・ 教室, 図書室, パソコンルーム, 「平成の寺子屋」教室等の施設・設備やゲストティーチャー等の有効利用
- ・ 恒常的な複数指導体制, 「と・よ・か・わの学び」の確立, 座席表指導案による指導と評価の一体化
- ・ 授業研究の恒常化
- ・ 各学年間に実践の交流
- ・ 学校生活アンケートによる子どもたちの生活の分析と「心の悩み相談室」の開設
- ・ セルフエスティーム(自尊感情)を高める, 生活点検カードの実施
- ・ 先進校視察や資料収集, 他校の研究や実践に学ぶ
- ・ 小・中9年間を見通した共通テーマの設定
- ・ 教科は国語科・算数科, および「総合的な学習の時間」で研究
- ・ 朝読書および保護者による読み聞かせの実施
- ・ 学習規律の駅川ブロック共通化
- ・ 国語・算数は学年末(2月)にCRTを実施し, 評価規準に照らし合わせて, 学力分析をすみやかに行う
- ・ 小・中学校間の授業参加

平成  
16  
年度

○ テーマ

「よろこびを感じ、生き生きと学び合う子ども」を育てるには  
～確かな学力の向上を図る指導法の工夫・改善～

○ 仮説

子どもたちに必要や関心を喚起させる素材をもとに授業を組み立て、算数的活動(①作業的・②体験的・③具体的・④探求的・⑤発展的・⑥応用的・⑦総合的)や国語的活動(①伝え合う活動【話す・聞く・書く・読む】・②言語事項に関わる活動)を仕組み、かつ、子どもたち一人ひとりの学力の実態を的確に把握し、複数の指導者できめ細やかな指導や支援をおこなえば、基礎・基本の学力が定着すると共に、その学力は「生きて働く力」へと高まっていくであろう。

○ 研究内容・方法

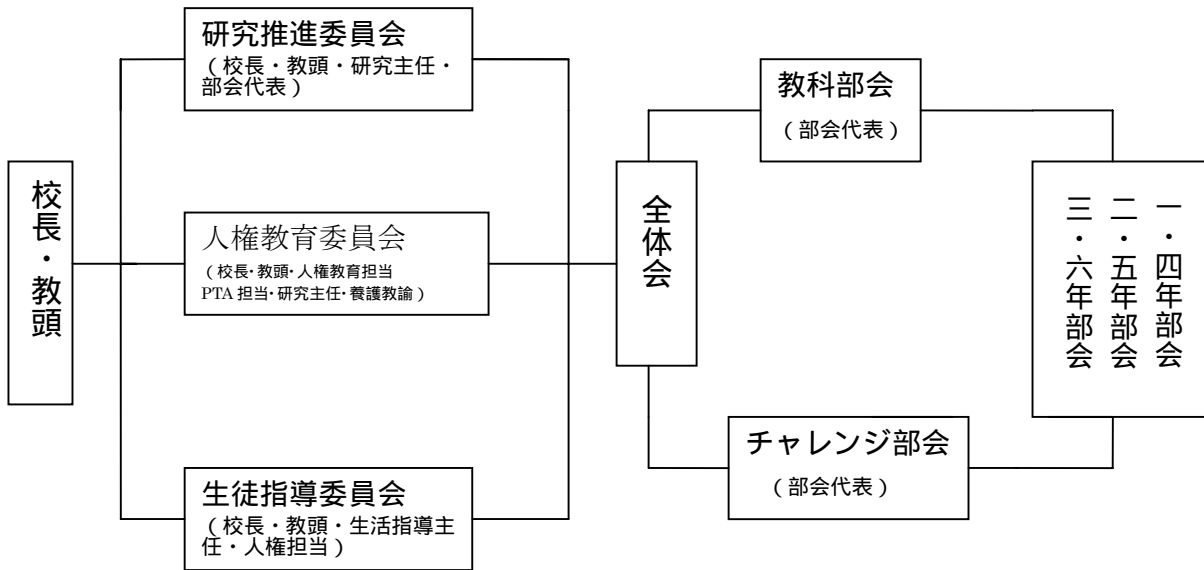
(内容)

- ・ 時間割, 指導組織の見直し
- ・ 学習の定着, つまずきの実態把握(平成15年度末のデータを再確認)
- ・ 教育環境の見直し
- ・ 国語科・算数科と総合的な学習の時間を中心とした指導法の工夫点・改善点の確認
- ・ 小・中学校間連携の研究実践
- ・ 学習過程(「と・よ・か・わの学び」)の確認
- ・ 学習形態(一斉・課題別・習熟度別・グループ別・TT など)
- ・ 座席表指導案の活用及び, 複数指導体制によるきめ細か指導
- ・ 学ぶ意欲を高め学力を検証・回復する, 「総合的な学習の時間」と生活科
- ・ 学力の基盤をつくる「心の教育」指導と道徳教育の充実
- ・ CRT・形成テストの実施による学力分析
- ・ チャレンジ学習
- ・ 教材教具の開発

(方法)

- ・ 授業時数の確保, 指導組織の確立, 年間指導計画の重視
- ・ 全学年が国語と算数のCRTテストを実施し, 学力分析を行い, 学年での研究仮説と指導の手だてを明確にし, 学年間ごとの研究の深まりを図る。
- ・ 教室, 図書室, パソコンルーム, 「平成の寺子屋」教室等の施設・設備やゲストティーチャー等の有効利用
- ・ 恒常的な複数指導体制, 「と・よ・か・わの学び」の確立, 座席表指導案による指導と評価の一体化
- ・ 授業研究の恒常化
- ・ 各学年間に実践の交流
- ・ 学校生活アンケートによる子どもたちの生活の分析と「心の悩み相談室」の開設
- ・ セルフエスティーム(自尊感情)を高める, 生活点検カードの実施
- ・ 小・中9年間を見通し, 共通テーマを設定した実践の積み重ね
- ・ 教科は国語科・算数科・生活科, および「総合的な学習の時間」で研究
- ・ 朝読書(毎日)および保護者による読み聞かせ(週に一度)の実施
- ・ 学習規律(駅川ブロック共通)の再確認
- ・ 国語・算数は学年末(2月中旬)にCRTを実施し, 評価規準に照らし合わせて, 学力分析をすみやかに行う
- ・ 小・中学校間の授業参加

(3) 研究推進体制



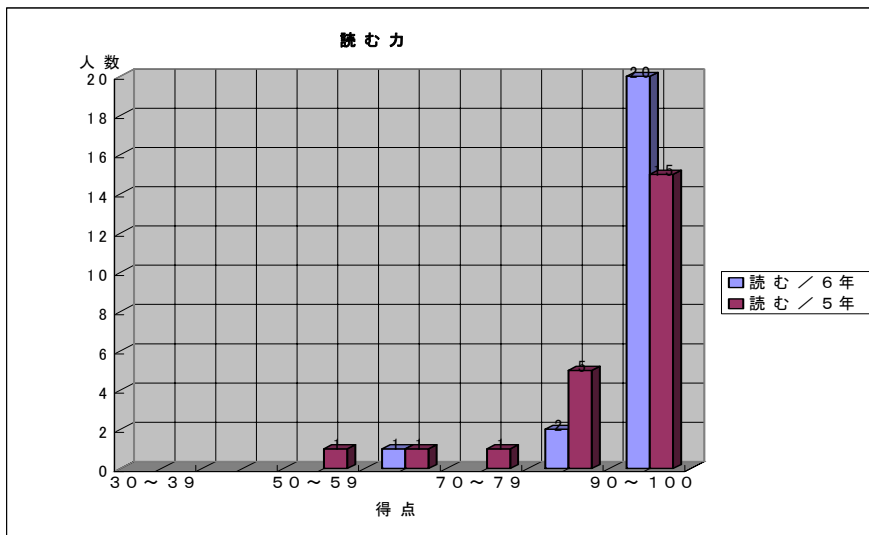
フロンティア事業を受けてから、初年度は低・中・高学年部会であったが、2年次より上記のように1・4年部会、2・5年部会、3・6年部会というふうに変えた。隣接学年よりも、より発展性、柔軟性のある部会にしたかったからである。また、固定していた「きめ細か担当」を学期毎に入れ替えることにした。その結果、きめ細か担当がひとつの部会しか知らないのではなく、全学年をよく把握し、学校全体的な傾向を見ることができるようになった。また、その学年に応じた入り方にきめ細か担当の長所を生かすことができるようになった。さらに、単学級で入れ替えのないクラスに学期ごとに違う教職員が入り、授業にメリハリをつけることができるようになった。

Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

■ 現6年生の、5年3学期～6年1学期の国語科・読む力をグラフに示す。

グラフ ①

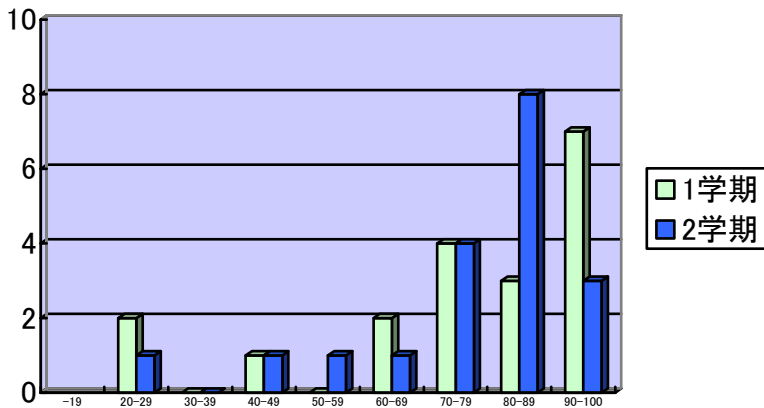


■ 6年国語科・読む力

・グラフから明らかなように上位の子どもが大きく伸びている。学習規律の確立と、複数指導體制による課題別学習が効果をあげたと考えられる。座席表指導案をもとにして、「と・よ・か・わ」の「か」=「考え、関わり伝え合う」学習活動に評価規準・基準を設定し、指導したことが効果をあげた。朝読書や読み聞かせもその要因の一つである。

■ 現3年生の、国語科・読む力をグラフに示す。

グラフ ②

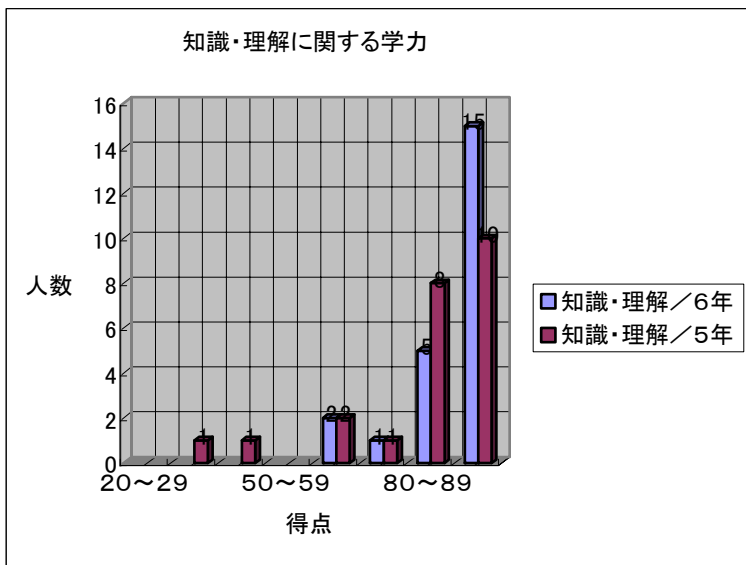


■ 3年国語科・読む力

・低位、中位の子どもたちが大きく底上げされている。学習規律の確立と、複数指導による、「総合的な学習の時間」と結びついた学習が子どもたちの学習意欲を高め効果をあげたと考えられる。朝読書や読み聞かせも要因の一つである。

■ 現6年生の、5年3学期～6年1学期の算数科・知識、理解に関わる学力をグラフに示す。

グラフ ③

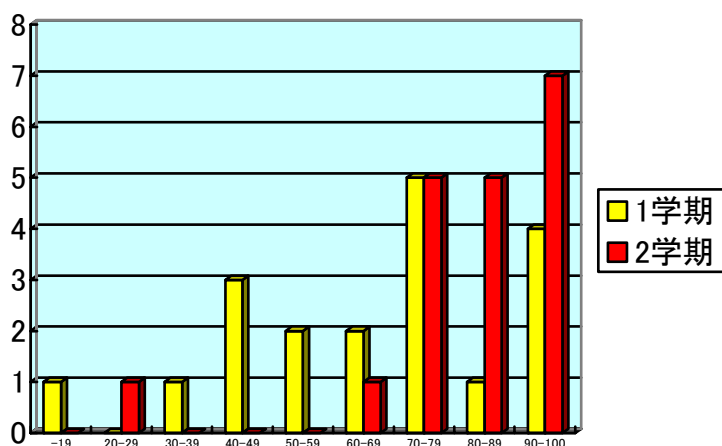


■ 6年算数科知識・理解

・低位の子どもが減少し、中位や上位に移行している。複数指導体制による、個別指導が効果をあげたと考えられる。また、授業の中で教材・教具(体積の学習でカンテンの立体を教具として使用、子どもの自作マスの製作など)を創意・工夫した効果も大きい。

■ 現3年生の、算数科・表現・処理に関する学力をグラフに示す。

グラフ ④



■ 3年算数科表現・処理

・中位の子どもたちが、明らかに上位へ大きく移行している。複数指導体制による習熟度別指導が効果をあげたと考えられる。評価規準・基準を「わ」=「わかる」に設定し、個人カルテを活用しながら、子どもたち一人ひとりの学習の進捗状況を細かく見取ったことが効果をあげた。チャレンジタイムの実施による基礎・基本の定着もその要因の一つである。

- これまでの実践から言えることは、複数の指導者により、座席表指導案や個人カルテを活用し、一人ひとりに行き届いた指導ができたことや、子どもたちに「とよかわ」の学びで学習方法が体得され、自己学習力がつき、関心や意欲が高まり、子どもたちの学力が向上したということである。

CRTや、形成テスト、チャレンジ学習の結果を適宜捉えたり、座席表のチェックや評価規準による事後評価等の客観的なデータを得、分析を試みるのが指導法の工夫・改善へとつながった複数指導体制が確立し、子どもたちもそのことをきちんと期待し、受け入れている。日々の授業実践の中では、C評価にあたる子どもにT2がつき学力を回復したり、また時間外に個人指導する姿も日常のことである。これは、多くの教師がかつて、「学級王国」を築いていたことから考えると、大きな変革であると言える。

座席表指導案を常に活用し(「と・よ・か・わ」の段階では必須)、それを集積した個人カルテで子どもたちの学習をきめ細かく見取ったことが効果をあげた。

また、子どもたちの学習への意欲・関心を喚起し、基礎学力の検証や回復の場である校外での体験的学習(とりわけ、「総合的な学習の時間」や生活科)では、複数指導態勢は欠かすことができない。2~3名でチームを作り、安全面も含め子どもたちの学習の場を保障することは、身に付けた基礎・基本の学力を大きく伸ばすことにつながっている。

子どもたちのセルフエスティーム(自尊感情)を高める「生活点検カード=『ねうちのある生活をしよう!』」を学期の節目ごとに活用したことで、子どもたちの学習を支える基盤ができた。

## 2. 今後の課題

- ① 国語科の学力を高めるためには、国語科や他教科、総合的な学習で伝え合う力を高めなければならない。そのためには、子どもたちに常に5つの言語意識(相手・目的・場面・方法・評価)をもたせなければならない。子どもたちにこの言語意識をもたせるための効果的な指導はどうあるべきかをT・T指導や習熟度別指導、課題別指導の活用で解決していかなければならない。
- ② 「とよかわ」の学習過程(問いをもつ、捉える⇒予想する・読む⇒関わり合う・考える・考え合う⇒わかる)を常に意識しながら教科指導をおこなっているが、この学習過程を効果的に活かす国語科・算数科・生活科・総合的な学習の時間での指導はどうあるべきかを次の方策で迫りたい。
  - (ア) 伝え合う力を重視した指導での具体的評価活動は、いつ、どこで、どのように行うのが効果的か。
  - (イ) 子どもたちの学力の定着をみるためや、指導法の工夫と改善のために学習過程の各段階で「ふりかえりカード」を使っている。「ふりかえりカード」の効果的な活用方法を実践を通し共通理解していく。
- ③ 国語科・算数科での『学力の回復の方法』(習熟度別・一斉・TT指導)と内容(学習材のあり方)を明らかにする。

## IV 学力等把握のための学校としての取り組み

- (1) 算数科、国語科、生活科、「総合的な学習の時間」における座席表指導案の活用
- (2) 座席表指導案とそれを集積した個人カルテの活用
- (3) CRT・形成テストの実施と、それをもとにした学力分析
- (4) 4観点(①関心・意欲・態度、②知識・理解、③表現・処理、④思考)を基軸にした「ふりかえりカード」(授業の終末で)の実施
- (5) 評価規準の見直し・評価基準の設定
- (6) チャレンジ学習(国語科・算数科)の継続

## V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### ・公開研究会実施

平成14年度学力向上フロンティア事業 第1年次

大分県小学校教育研究会 算数教育研究発表会

- (1) 日時 平成14年11月15日
- (2) 場所 本校体育館および各教室
- (3) 対象 大分県小学校教職員
- (4) 会の目的 児童の生活から入り生活に抜ける児童主体の学習の組み立てが数理追求へのエネルギーとなって、「生きる力」の育成となることを提案した。

平成15年度第1回公開校内研究会

- (1) 日時 平成15年6月25日
- (2) 場所 本校教室
- (3) 対象 駅川ブロック教職員希望者
- (4) 会の目的 学力向上フロンティア事業2年次となり、今後の研究の方向性をさぐるため。具体的にいうと、複数の指導者によるきめ細かな指導はどうあればよいのか、習熟度別学習と課題別学習の提案授業を行った。

平成15年度第2回公開校内研究会

- (1) 日時 平成15年10月1日
- (2) 場所 本校教室
- (3) 対象 駅川ブロック教職員希望者
- (4) 会の目的 「とよかわのまなび」の学習過程を効果的に生かした問いになっているか、伝え合う力を重視した国語科の指導はどうあればよいか、また、自己評価活動はどうあるべきか

平成15年度第3回公開校内研究会

- (1) 日時 平成16年1月28日
- (2) 場所 本校1年教室
- (3) 対象 駅川ブロック教職員希望者
- (4) 会の目的 本校の捉える「習熟度別学習」での支援の仕方はよいか？又、座席表指導案はとよかわの学びを支えるものとなっているか検証した。

第一回駅川ブロック学校間連携全員学習会

- (1) 日時 平成15年1月22日
- (2) 場所 宇佐教育会館
- (3) 対象 駅川ブロック全教職員
- (4) 会の目的 駅川ブロックの4校教職員で、小中9年間を見通した子育てを目指す共通認識をもつことができた。  
4校共通での取り組み(朝読書・学習規律・チャレンジ・CRT分析)を情報交換する。



## 第二回 駒川ブロック学校間連携全員学習会

- (1) 日時 平成15年8月6日
- (2) 場所 宇佐教育会館
- (3) 対象 駒川ブロック全教職員
- (4) 会の目的 駒川ブロックの4校教職員が互いに共通認識の下で、共通課題(学力観、学習形態、CRTの結果をどう生かしているかなど)について論議したり、情報交換しあうことで、日々の実践に生かすことができた。

### その他

- ・年4~5回 駒川ブロック4校校長・研究主任合同会議
- ・年1回 駒川ブロック4校合同先進校(佐賀・熊本)視察および実践交流会
- ・平成14・15年度実践事例集記載
- ・地域、保護者への発信・・・月2~3回の学校便り、回覧板において豊川方式学習の進め方、児童の変容などをお知らせし、毎月19日の宇佐教育の日には公開授業を行い、開かれた学校づくりに努めてきた。また、保護者役員研修の日には「確かな学力」の基盤は健全な生活にあるということで、児童の生活面から、心の発達に親がどうかかわっていけばよいか、ともに検証し、よりよい子育てをしていこうと話合ってきた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7~12学級		
	13~18学級	19~24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		